



ぺったんぺったん おいしくな〜れ

日本赤十字社釧路さかえ保育園で、「防火もちつき大会」が行われ、園児が元気いっぱいにお餅つきをしました。

地元の幼年消防クラブに入っている同園の年末恒例行事で、消防団員や園児の保護者といっしょに餅をつき、おいしいお雑煮にして、新年の無病息災を願いました。

CONTENTS

新春のごあいさつ	2
活動資金がピンチ	3
冬の防災	4
健康生活支援講習に新指導員誕生	5

脈々と受け継がれる赤十字魂	6
わがまちの赤十字奉仕団(大空町)	7
はたちの献血キャンペーン	8

新春のごあいさつ



日本赤十字社北海道支部
支部長 伊藤 義郎

新年あけましておめでとうございます。

みなさまにおかれましては、日頃より赤十字事業への深いご理解とご協力を賜り、心からお礼申し上げます。

昨年は、熊本地方での地震や道内の台風大雨災害において、北海道支部として全力を挙げて救援物資の輸送をはじめ救護班の派遣やこころのケアなど、被災者に寄り添った活動を行ってまいりました。

本年は、救護訓練や災害時におけるこころのケア要員の研修等により、引き続き災害救護体制の充実を図ってまいります。

また、青少年赤十字における防災教育の普及、赤十字ボランティアによる各種安全法の普及など、職員・ボランティアを挙げて広く防災意識の向上に努めるほか、8月には旭川市で「日本赤十字社北海道支部創立130周年記念赤十字大会」を開催します。

こうした活動を支えている活動資金(社資)につきましては、年々減少し、厳しい状況にあります。支部としても、より多くの方々に赤十字思想をご理解いただき、更なる社資確保に努めてまいります。みなさまにおかれましても、より一層のご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、この一年がみなさまにとりまして幸多い年となりますことを心から祈念し、新年のごあいさつとさせていただきます。

大雨災害義援金へのご協力ありがとうございました

「平成28年8月20日から大雨(台風9・10・11号等)災害義援金」へたくさんのご協力をいただきありがとうございました。

期間中にみなさまからお寄せいただいた金額は、**2億137万7,080円**となりました。

お預かりした義援金は、北海道、日本赤十字社北海道支部、北海道共同募金会、各報道機関による「災害義援金配分委員会(事務局：北海道)」に全額送金し、10月14日と12月19日の同委員会で決定された配分基準に基づき、被害に遭われた60市町村を通じて全額が被災された方々へ届けられます。

なお、詳しい配分基準や市町村別配分額については、道庁保健福祉部のホームページをご参照ください。
(右のQRコードからアクセスできます)

みなさまのご協力、まことにありがとうございました。



教訓を次の災害に生かすために ～大雨災害の活動報告検討会～

道内を襲った大雨災害で活動した赤十字スタッフが集まり、活動内容や改善点を話し合う報告検討会が行われました。

今回の活動では、被災された方への対応はもちろん、不眠不休で被災者支援に当たる行政職員への「こころのケア」なども行いましたが、支援活動への理解を深めることや活動に必要な技術の研修など、新たな課題が明らかになりました。

今回の教訓をもとに、日頃からの行政などとの連携をより強化し、災害への備え・対応の充実を図ってまいります。



活動資金がピンチ!

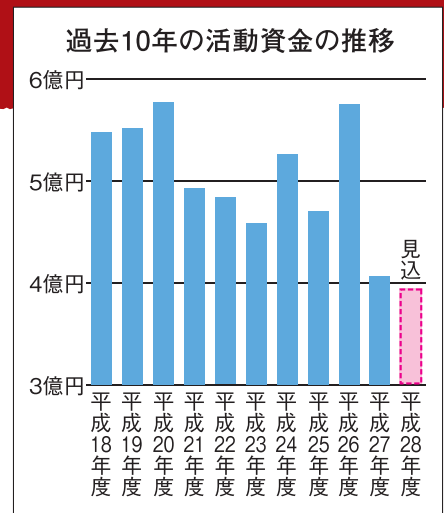
～今後の事業展開に支障を来すおそれも～

マンションなど戸別にお宅を訪問して協力をお願いすることが難しくなったことなどにより、活動資金が減少し、今年度は、35年ぶりに4億円を下回る見込みです。

5年前と比べて約6,500万円、10年前と比べると約1億5,000万円もの減少となり危機的な状況です。

そのため、今年度は内部経費の一層の削減に加え、災害救護訓練や各種安全法研修会、奉仕団研修会など、やむを得ず事業計画を一部変更して対応せざるを得ない状況です。

今後も継続的な赤十字活動を推進していくために、町内会や企業・団体への協力依頼をさらに進めてまいります。みなさまの引き続いてのご協力をよろしくお願いいたします。



—活動資金へのみなさまのご協力をぜひお願いいたします—

ご協力方法は、①赤十字窓口 ②郵便局・北洋銀行・北海道銀行の本支店窓口
③口座振替 ④クレジットカード

送金手数料無料の振込用紙のご請求やお問い合わせは
いますぐ **011-231-7126** にお電話を。

おいしく、気軽に 赤十字を応援

熊本地震や道内大雨災害などをきっかけに、赤十字の活動に賛同いただいた企業のご協力により、売上げの一部が赤十字の活動資金として寄付される商品が販売されています。

商品には、赤十字への支援が明記されていますので、お土産やおやつ、ティータイムのお供にぜひどうぞ。

メロンタルト

協力: ㈱ボンタイム北海道

熊本地震をきっかけに「北海道からできることを」と企画。道内大雨災害への支援も目的にしています。

北海道厚沢部産さつまいもと熊本県産メロン果汁を使用したスイートポテト風タルトで、JR札幌駅内「どさんこプラザ札幌店」で発売中



RYOMAと紅茶 ～龍馬との茶事～

協力: ㈱SakuraPartners

新商品の発売をきっかけに企画。

「日本の新たな夜明け」をコンセプトに、日本の象徴である桜の花を贅沢にブレンド。風味は桜とさくらんぼ。今までにない、親しみがありながらも斬新で魅力的なフレーバーで、同社の通販サイト「さくらや」で発売中



カラムーチョ

協力: ㈱湖池屋

台風の大雨で浸水被害を受けた南富良野町の同社製造委託先「シレラ富良野工場」の操業再開をきっかけに企画。

複雑でスパイシーな味わいが楽しめる「特製ホットチリ味」と北海道でなじみのある「山わさび味」の2種類がスーパーやコンビニなどで発売中



冬季体感型防災イベント「ぼうさいタウン」

寒さ厳しい冬の防災意識を高めてもらおうと、北海道労済主催の冬季体感型防災イベント「ぼうさいタウン」に赤十字も参加し、多くの方が心肺蘇生やAEDの使い方、避難する際に何を携えていくかを考えるクイズにチャレンジしました。

また、会場には床一面にブルーシートが敷かれ、日本赤十字北海道看護大学の根本教授が、冬の避難所で気をつけること、寒さのしのぎ方を参加者にレクチャー。段ボールベッドやパーテーションの組み立ても行われ、本物の避難所さながらのイベントとなりました。



パーテーションを使って本物の避難所さながらに

冬のぼうさい心得

其の壹

吹雪のときは外出しない

停電にも備えて、カセットコンロ・ボンベ、ポータブルストーブ、簡易トイレ、ラジオなどを用意しておきましょう

其の貳

車が立ち往生したらエンジンを止める

車のマフラーが雪で埋まり、排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあります。エンジンを止めた車内は急激に冷えるため、寝袋、カイロ、帽子手袋など防寒グッズを用意しておきましょう

BOUSAIで交流 ～青少年赤十字国際交流事業～

10月29日(土)～11月2日(水)の5日間、モルディブ共和国の青少年赤十字メンバー2名を迎え、防災や赤十字の災害対応といったテーマを交え、札幌市内の青少年赤十字(JRC)メンバーらと交流を深めました。

滞在中には、海外メンバー、札幌市内のJRC高校生メンバー、札幌市青年赤十字奉仕団メンバーが「災害時の食事作り」を体験。水やお湯を注ぐだけでできるご飯やパスタなどの試食、特殊なビニール袋(ハイゼックス)にお米と水を入れてご飯を炊きハヤシライスを作るなど、日本の非常食を体験しました。

そのほか、札幌市内のJRCに加盟する小・中・高校での書道体験や児童生徒との交流、北海道赤十字血液センターや札幌市民防災センターの見学などを行いました。

2名は、「一生忘れられないすばらしい経験で、モルディブと日本との交流が一層深まることを願っている」と話し、名残惜しい気持ちを胸に北海道をあとにしました。



ハイゼックスでの炊飯体験



中学校での家庭科授業で
みたらし団子をクッキング

健康生活支援講習の新指導員が誕生

高齢者の支援や介護の方法が学べる「健康生活支援講習」の講習会で先生として活躍する「指導員」が新たに12名誕生しました。

10月から始まった候補者研修2日間、本講習5日間、新任指導員研修2日間のハードな道のりを見事クリアし、12月に晴れて指導員となりました。

健康生活支援講習は、年間約60回開催されていますが、超高齢化社会を迎え、新たな指導員の活躍がますます充実させていきます。



みんなががんばるぞ!(指導した講師2名とともに)

指導員になって

半田 美江
 仕事で高齢者と接する機会が多く、また、以前母が倒れたときに何もできなかった経験もあり、きちんとした技術が必要と感じ、チャレンジしました。

忙しい時間をやりくりして受講して下さる方々に、ひとつでも多くの知識や技術を身につけていただくことはもちろん、いかにわかりやすく伝えられるかを考え、思いやりを感じていただけるような指導をしていきたいです。



将来はお医者さんに ～北見赤十字病院ブラックジャックセミナー～

子どもたちに外科医の仕事を手近に感じてもらおうと、手術の模擬体験ができる「ブラックジャックセミナー」が11月6日(日)に北見赤十字病院で開催されました。

このイベントは、北見赤十字病院、市民グループ「北見赤十字病院の明日を考え支援する会」と医療機器メーカー「ジョンソン・エンド・ジョンソン」の共催により行われたもので、北見市内の中学生27名が参加しました。

参加者は、腹腔鏡の模擬体験や、マネキンの腹部にがんをマーキングした鶏肉を超音波メスで切除するなどを、病院医師らの指導のもと、真剣なまなざしで体験しました。

将来、ひとりでも多くの子どもが医師を志してほしいと願っています。



超音波メスを使って医師になりきる

看護師の夢へ、また一步 ～看護専門学校で戴帽式～

伊達と浦河の赤十字看護専門学校でそれぞれ戴帽式が行われました。

戴帽式は半年間の基礎学習を終えた1年生が、これから本格的に始まる実習を前に行われる大切な行事で、伊達22名、浦河18名がナースキャップを戴帽されました。

また、キャンドルサービスも行われ、厳かな雰囲気の中で、半年間の慣れない生活を振り返り、家族や友人への感謝や看護師となる夢への決意を新たにしていました。



キャンドルの灯火に看護師への夢をこめて

脈々と受け継がれる赤十字魂

～3奉仕団が創立20年・40年迎える～

40年 岩見沢市水上安全赤十字奉仕団

創立40年を迎え、岩見沢市で記念式典が行われました。

同奉仕団は団員32名で、救助員養成講習のほか、小学校プールでの救命講習や着衣泳の講習など、水と親しみ、水の事故を防止する活動を行っています。

式典では、長年にわたり活動している団員15名に、有功章などが手渡されました。

40年を迎えて

委員長 植村 高巳

海のない岩見沢で、水上安全赤十字奉仕団の活動は限られたものかもしれませんが、水の怖さを知る私たちが、水の楽しさを赤十字の精神にのっとり、今後も活動の輪を広げていきたい



長年の功労に有功章が贈呈されました

40年 函館地区救急法赤十字奉仕団

創立40年を迎え、函館市で記念式典が行われました。

同奉仕団は団員72名で、講習会の開催や防災訓練への参加、赤十字フェスティバルでの救急法体験コーナーの実施などの活動を行っています。また、平成5年の北海道南西沖地震では、函館市内の他の奉仕団と協力し、奥尻町で長期間にわたる防災ボランティア活動を展開しました。

式典では、長年にわたり活動している団員48名に、有功章や感謝状が手渡されました。

40年を迎えて

委員長 三澤 洋大

戊辰戦争で敵味方なく傷病兵を治療した医師・高松凌雲という大先輩を有する函館で、皆さんで手を取り合い、奉仕団の役目を果たしていきたい



感謝状を受け取る三澤委員長

20年 占冠村赤十字奉仕団

創立20年を迎え、占冠村で記念講演会が行われました。

同奉仕団は団員55名で、村内法人を回っての社資募集活動や福祉施設への清拭布の寄贈、水害避難訓練への協力などの活動を行っています。また、ハイゼックスを使った炊出し訓練を毎年行い、青少年赤十字に加盟の占冠中央小学校児童とともに万一に備えています。さらに、昨年の道内大雨災害では、南富良野町に赴き、泥で汚れた町の清掃活動を行いました。

講演会では、日赤道支部橋田事業部長が「災害時に奉仕団員としてできること」と題して講演し、参加者は熱心に聞き入っていました。

20年を迎えて

委員長 藤本 広栄

20周年も1つのステップとして、団員一同これからの奉仕活動に励んでいきたい



南富良野町でのボランティア活動

わがまちの赤十字奉仕団

～大空町赤十字奉仕団～

地域に根ざしたさまざまな活動をしている赤十字奉仕団。その中からいくつかの奉仕団の取り組みをご紹介します。

大空町赤十字奉仕団は、平成2年5月に結団し、平成27年に創立25周年を迎えました。

現在の団員数は20名で、「献血啓発協力」「友愛セール」「高齢者世帯ふれあい訪問」「ふれあい広場」及び「大空町防災訓練」への参加・協力、団員スキルアップのための「各種研修会」の開催、アンリーくん交通安全お守り制作と園児・児童への配布啓発など、様々な奉仕活動を行っています。

「友愛セール」は結団当初から継続して行っており、町民の方々から物品を提供していただき、売上金は、奉仕団の福祉活動の他、日赤災害義援金等への支援に活用させていただいています。

「防災訓練」では、ハイゼックスを使用しての炊飯の実演。「高齢者ふれあい訪問」は、町内居住の70歳以上の方々のご自宅を各団員が訪問し、安否の確認と言葉の触れ合いを通じて赤十字活動のPRもさせていただいています。

奉仕団活動を通じていろいろな場面に出会い、多くの町民の方々から感謝の声をお寄せいただいています。

20名と少ないメンバーでの活動ですが、これからも奉仕団の信条のもと、大空町の地域に密着した温かい奉仕活動を続けていきたいと思っています。

委員長 矢浪 千恵子



献血は若い世代に理解を広める



1軒1軒ご自宅を回っての「高齢者ふれあい訪問」

たくさんのご協力ありがとうございました。

～活動資金にご協力いただき、表彰された方々を紹介します～
(敬称略)

金色有功章

～社資納入額50万円以上～

【支 部】 (株)日星電機
【支 部】 医療法人社団 平田博巳内科クリニック
院長 平田 博巳

銀色有功章

～社資納入額20万円以上～

【帯 広 市】 千葉塗装店
【支 部】 フラット合成株式会社

社長感謝状

～金色有功章受章後さらに50万円以上～

【帯 広 市】 相互電業株式会社
【支 部】 伊藤組土建株式会社



冬の献血にご協力を ～はたちの献血キャンペーン～

冬は風邪やインフルエンザ、悪天候などの影響で献血の協力が得られにくくなる季節です。

血液センターでは、冬でも血液を安定して確保し医療機関にお届けするため、電話やはがき、ホームページなどを通じての協力呼びかけを強化していますが、より多くの方にご協力をいただくため、「はたちの献血キャンペーン」(1月1日～2月28日)を実施します。

このキャンペーンでは、新成人を中心に献血への理解と協力を求め、特に400mL献血、成分献血を推進します。

なお、キャンペーン期間中、初めて献血にご協力いただいた方に、記念品としてキャンペーンキャラクター羽生結弦選手オリジナルクリアファイルをプレゼントします。詳しくは、「はたちの献血」専用ホームページをご覧ください。

ご協力よろしくお願ひいたします。



フィギュアスケート羽生結弦選手が
キャンペーンキャラクターです

スキー場での事故は私たちが防ぐ! ～第45回赤十字スキーパトロール競技大会～

スキー場での事故を防ぐために全道各地のスキー場でパトロール活動をしているスキーパトロール赤十字奉仕団が一堂に集まり、救助技術の向上を図るため、持ち前の技術を競う大会が平成29年2月に登別市で開催されます。

傷病部位を手当てして搬送用のソリに載せ、速く安全に搬送する競技など計3種目を行い、日頃の活動の成果を競います。

「スキー場の事故は私たちが防ぐ」という団員たちの強い心意気をぜひご覧ください。

【開催日】 平成29年2月26日(日)

【場 所】 サンライバスキー場(登別市)



傷病者を手当てし迅速に搬送

ご協力ありがとうございました ～2016年NHK海外たすけあい～

12月1日から25日までNHK海外たすけあいが行われ、多くの方からご協力をいただきました。

キャンペーン初日には、NHK札幌放送局にてオープニングセレモニーが行われ、札幌市赤十字奉仕団のみなさんからたくさんの募金を手渡されました。


期間中にお寄せいただいた金額は、121万733円(12月25日現在)となりました。ご協力いただいた寄付をもとに、世界の紛争や災害で苦しむ人々の支援活動を行ってまいります。

ご協力ありがとうございました。



オープニングセレモニーで募金箱を手渡す
札幌市赤十字奉仕団のみなさん

発行日 平成29年1月17日

発行元  **日本赤十字社** 北海道支部 札幌市中央区北1条西5丁目
Tel : 011-231-7126

 公式フェイスブックで情報発信中!
<https://www.facebook.com/hokkaido.jrc>

 ホームページで  **日赤北海道**  検索
www.hokkaido.jrc.or.jp/